

発症前抗凝固療法の違いによる 脳梗塞入院時重症度と3か月後転帰に関する研究

研究の対象となる方

2012年8月～2020年10月に当院で脳梗塞もしくは一過性脳虚血発作の治療を受けられた方

目的・方法

心房細動を有する方は脳梗塞などの血管障害発症予防目的で血をサラサラにする抗凝固薬を使います。抗凝固薬には大きく2つ、ワーファリンと直接経口抗凝固薬（DOAC）があります。ワーファリンは血液検査にてINR値を測定して薬の効き具合を確認します。DOACでは血液検査は必要ありませんが、腎機能などに従って適正内服量を決定します。抗凝固療法を内服された方が脳梗塞を発症した場合、軽症になりやすいと報告されています。しかしDOACは比較的最近使われ始めた薬であるため、その内服量（適正内服量であったかどうか）と脳梗塞発症時の重症度やその後の転帰については十分わかっていません。そこでこの研究では、脳梗塞発症時の抗凝固療法の使用状況と脳梗塞発症時の重症度およびその後の転帰に関して、患者さんの診療記録を調査し、その特徴を明らかにすることを目的としています。

この研究では診療記録から情報を収集します。診療の中で得られた情報のみを使用し、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究期間

2021年7月27日～2022年8月31日

研究に使用する情報

年齢、性別、基礎疾患の有無、内服薬、入院時重症度、3か月後転帰など

お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 脳神経内科 医長 永沼雅基 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
-----	--

以上